

# 1.5°C特別報告書の評価と AR6への期待

RITE参与  
山口光恒

# SR1.5報告書について

COPからの要請

1) 1.5°C上昇の影響

2) 1.5°C達成のGHG排出経路

- 短期間にこれだけの報告書完成を評価
- 意志決定者に多くの有用な情報
- 地球平均気温の定義は前進

# SR1.5報告書SPM

## 意志決定者の観点から

意志決定者には下記の情報が必要

- 目標達成の総コスト(対GDP或いは消費)
  - 政治家は多くの課題に直面(SDG、財政赤字、年金医療等)
  - コストは非現実的な仮定(世界共通単一炭素税)に基づいている点の明記
- 限界削減費用
  - 1.5°CのMACは2°Cの3-4倍(意味なし)
- 不確実性の情報(含む気候感度)

# 気温目標程度に応じたMAC

Unit US\$/tCO<sub>2</sub>

Target	2030	2050	2070	2100
2°C High Overshoot	15-220	45-1050	120-1100	175-2340
1.5°C Non Overshoot	135-6050	245-14300	420-19300	690-30100

Source: SR1.5 Chapter 2 p.152

# AR6及びその後に向けた期待(1)

AR6の完成は2023年のGlobal Stocktake直前、この意味で真に役立つ情報の提供が重要

- 政策決定に有用な情報とは？
  - 1) 対策コストと気温上昇の影響(費用と便益)
  - 2) 不確実性の程度(ECS、BAU等)
  - 3) 気温目標の達成可能性の評価(含む技術的可能性)
  - 4) その他鍵となる社会経済への影響(衡平性など)
- IPCCは国際交渉の後追いでよいのか
  - 初期の報告書の焦点は人為的影響問題
  - モデル研究の進展と目標の後追い AR4、AR5、SR1.5

# AR6及びその後に向けた期待(2)

- 政治化に気温目標が機能しないことを警告する
- CO2ゼロエミッションへのパラダイムシフト
- そのためにはそのような論文が必要